



城南中だより

舞鶴市立城南中学校
令和6年1月10日発行
第11号 通算673号



<http://jonan-maizuru.edumap.jp/> TEL 75-0137



この度の能登半島地震で被災された皆様に
謹んでお見舞い申し上げます。

新年のご挨拶

保護者・地域の皆様方には日頃よりあたたかいご理解とご協力を頂いておりますことに、お礼申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

進路実現を目前に控えた3年生を全校で支え、「行ってしまう」「逃げてしまう」「去ってしまう」といわれる3学期の3ヶ月間と4月からの新学期を見通して、令和6年の始まりを計画的に丁寧に過ごすことが1月の目当てです。



さて、今年は辰年です。干支である想像上の生きもの「龍」は、むかし話では「現れると縁起が良い」等として扱われることもある一方、時には恐ろしい存在として描かれました。辰年は「エネルギーが満ち溢れて、願いの成就に向けて大きく動く！」というような年だそうです。

しあわせ☆を考える SIWASE

その昔、「ハーバード大学で数十年間をかけて研究を重ねて、ついに人類にとっての『幸せの定義』が明らかになった。」という記事を目にしました。記事では「幸せ」は、目先の富や名誉ではなく「**あたたかな人間関係**」といったような、ごく真っ当な納得のいく結論だったと記憶しています。確かに、その土台がしっかりとしていれば家庭でも、学級でも、職場でも、人生の大抵のことは互いに知恵を出し合い手を取り合って乗り越える勇気がわいてきます。

「三人のレンガ職人」のお話をご存じでしょうか。この寓話では3人の職人の言葉を借りて、生きる喜びや働くことの意義について我々に問いかけています。お話を簡単に振り返ってみましょう。

～ ある町で旅人が職人に会い、何をしているのか尋ねます。一人目の職人は「親方に言われてレンガを積んでいるんだ。」と、つまらなそうに答えたそうです。次の職人は、旅人の問いに「壁をつくっているのさ。この仕事で家族を養っているんだ。感謝しないと。」と、仕事に励みながら答えました。そして三人目は、「いずれ大聖堂が出来上がるんだ。そしてここでたくさんの人々が祈りを捧げ、祝福されるんだよ。」と、自分が今まさに、大切な事業にかかわっていることの喜びや、何十年も先の町の人々の幸せを嬉しそうに語りました。～

旅人から見ると同じようにレンガを積む作業をしていますが、「みんなの役にたたい」「頼りにされている」などの、職人が自ら見出した価値が支えとなり、「こうしたい」という明確な目的意識や喜び、誇りや使命感となって意欲を高めているのがわかります。

地域・社会に貢献する「自立した社会人の育成」を目指して、本校でも励んでいます。

保護者・校区の皆様方の変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。寒さ厳しき折、くれぐれもお体を大切に、どうぞご自愛ください。



校長 福本 浩介 教職員一同

より良い学校教育で、より良い社会をつくる